

# 2017 年度コラボミュージアム作品づくりコンテスト

## 小学校・中学校部門 アピールシート

平成 30 年 1 月 23 日

所属名 : 京都府京都市立桃陽総合支援学校

実践学年組: 小学部, 中学部

氏名: 前西 幸

教科	特別活動
実践期間	29 年 5 月 18 日 ~ 30 年 3 月 23 日
実践タイトル (35 文字以内) 児童生徒会活動日誌	
実践の目的 ・遠隔地にある本校と 4 つの分教室をつなぎ、児童生徒会活動の活性化を図る。 ・本校・分教室の児童生徒が共に活動することで、連帯意識を育むとともに入院生活の励みとなるようにする。	
実践のポイント・工夫 ・離れた本校と 4 つの分教室の児童生徒がコラボノートで意見交流や活動報告を行うことで協同して児童生徒会活動を行えるようにする。 ・本校と分教室では学習の日程が異なることや病状により、リアルタイムのやり取りは少ないが、コラボノートで提案しておけば、それぞれのタイミングで書き込み、無理なく意見を交流することができる。	
実践内容 (簡単に) 児童生徒会では、代表者会議を中心に企画運営を進めている。本校では、週 1 回、分教室では、不定期にそれぞれの教室で活動している。月に 1 回は、テレビ会議で合同代表者会議を行っている。本校での毎週の活動は、コラボノートを活用して報告を行い、分教室からも意見や感想を書けるようにしている。本校・分教室協同の取組については、コラボノートで提案をし、それぞれが意見を出し合うようにしている。	

(コラボノートを) 使用してよかった点を教えてください。  
年間を通してコラボノートで交流することで本校と分教室との距離感が縮まり、協働的な活動ができるようになった。本校と分教室では環境や実態が違うが、「共にできる活動」を考えることが、相手を思いやる心や責任感を育てることにつながった。在籍数が少なく書込みも多くはないが、入院生活で制約の多い子ども達にとって他の教室とつながり意見を交流できたことは、良い経験となった。本部役員は例年本校の児童生徒が担っていたが、「つながり」を大切にすることで児童生徒会活動への関心が深まり、今年度は、分教室からも本部役員が出てきたことも、大きな成果である。

## 実践記録の概要（単元略案）

※コラボノートを活用した場面だけではなく、全体の学習の流れとコラボノートをどの場面でどのように活用したか記載してください。

全 2 3 時間

時数	学習活動	先生の指導・支援 および評価	コラボノートの活用
1	自己紹介をし、今後の流れを確認しよう	テレビ会議システムで各教室や病室とつなぎ、会議を行った。コラボノートの活用等について説明し、児童生徒会活動の見直しをもてるようにした。	意見交流とまとめ (話し合い広場:自己紹介)
2	スローガンを作ろう	各分教室のスケジュールやそのときの体調等に合わせて、意見を書き込み交流できるようにした。	提案に対する意見交流 (話し合い広場:意見交流)
2	具体的な活動を決めよう	スローガンのキーワードを基にコラボノートにマインドマップを書き、活動のアイデアを出し合った。その中から具体的な活動を決めた。	マインドマップでの意見交流
6～ 7月	質問コーナーを作り、交流しよう	休み時間に常時パソコンを使用できるようにし、本校と分教室でそれぞれが自由に質問したり答えたりして交流できるようにした。	質問コーナーの作成と交流 (児童生徒会活動日誌:質問コーナー)
11～ 12月	「いい言葉」(頑張れる言葉や励まされる言葉, 嬉しかった言葉など)を集め、「いい言葉」の投票をしよう。	みんなで「いい言葉」を出し合い、互いに見合うことで、「いい言葉」を掛け合うよう意識付けを行った。	コラボノートで言葉を出し合い、投票する。(話し合い広場:いい言葉・投票ありがとう)
1～ 2月	桃陽フォトコンテストをしよう	テーマを決め、それぞれテーマに沿った写真を撮り、フォトコンテストエントリーする。コラボノートに貼られた写真の中からテーマごとに投票し賞を決める。	コラボノートに写真を貼り、投票する。
通年	活動の様子を報告しよう	本校での毎週の活動の様子を、写真やコメントにしてコラボノートに貼り付け、配信した。	毎週の活動報告と交流 (児童生徒会活動日誌:定例会)